

令和元年度 授業改善推進プラン 学年メモ

4年

	児童の実態	学習指導の課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	具体目標	3月 成果と課題
国語	<p>○「書くこと」では、いつ、どこで、誰と、何をしたという程度の文章を書くことはできるが、一つの事実を膨らませて表現することが苦手である。</p> <p>○グループによる話し合い活動では、テーマについて全員が意見を言うのが難しい。語彙力が少なく、スキルが身につけていないことが多い。</p>	<p>○個人差が大きい活動になるため、個別の学習時間を確保することが課題である。</p> <p>○自分の意見をまずもつ時間をしっかりと確保することが課題である。また、少人数で話し合う経験を増やしていく指導が不十分である。</p>	<p>○文章を書く機会を多く設ける。(視写・作文・日記)短文メモから長文へ、作文メモから作文に書かせるなどの指導を行う。</p> <p>○話し合い活動の場面では、自分の意見を先に書いてから話し合いを始めるなど、自分の考えをしっかりと、話し合いに進んで参加するように指導を徹底する。</p>	<p>○文章の題名や書き出しの工夫、会話文やその様子を入れる書き方を指導する。例文などのモデルを多く提示する。</p> <p>○日常的に音読やスピーチ活動などに取り組み経験を増やす。漢字指導の中で熟語を使った短文を作り、語彙力を増やす。</p>	<p>○構成や表現の仕方を工夫した分かりやすい文章を書くことができる。</p> <p>○伝え合うことの楽しさや必要性を感じ取る。自分の考えとその理由・根拠などをはっきりとさせた論理的な話し方を身に付けさせる。</p>	
社会	<p>○学習意欲はある。写真などの資料から内容や様子を読み取ることにはできるが、グラフや表などの資料や傾向を読み取ることが苦手である。</p> <p>○地域社会の安全や衛生を守る諸機関の機能について実生活と関連させながら理解する点が不十分である。</p>	<p>○資料などを活用して調べる力を定着させる時間を増やす必要がある。</p> <p>○教科書をなぞるだけの学習にならないよう、自分の生活と結び付けて考えられるような発問を組み立てていくことが課題である。</p>	<p>○問題を解決するために、資料から読み取ったことを比較・関連付けさせることに重点を置いた学習活動を取り入れる。</p> <p>○「安全なくらしを守る」「ごみのゆくえ」「水はどこから」などの単元では、できる限り体験学習・見学学習を重視し、知識理解と実生活を結びつける授業になるように努める。</p>	<p>○ICT機器や電子黒板を活用し、視覚的に理解しやすくする。</p> <p>○見学学習後には、しおりやパンフレットを活用して整理させる。自分自身の市民としての関わりや役割を考え、まとめさせる。</p>	<p>○グラフや表などの資料から比較・関連付けて読み取ることができるようにする。</p> <p>○全児童が、自分で調べたい課題をもって調べ、まとめることができる。</p>	
算数	<p>○「円と球」「三角形と角」などの図形の問題で言葉や定義について正しく理解し、問題場面において活用して考えることが難しい児童がいる。</p> <p>○文章や表から読み取ったことから、問題を解決できる力が育っていない。</p>	<p>○定規やコンパス、分度器などを使った問題解決の時間が十分に確保できなかった。</p> <p>○図や数直線で、読み取ったことを表すと、分かりやすく解決できることを実感できるように指導する必要がある。</p>	<p>○三角定規、分度器、コンパスなどの道具を使いこなすための反復練習を確保する必要がある。</p> <p>○問題文の中で分かっていることにアンダーラインを引かせ、聞かれていることを□で表して図に表す経験を多くさせる。</p>	<p>○具体物の教材を取り入れることで、思考の領域を広げられるように心がける。</p> <p>○ICT機器や電子黒板を活用し、視覚的に理解しやすくする。また、問題作りを行うことで、比較・関連付ける力も育てたい。</p>	<p>○児童の90%以上が題意をとらえて、作図ができるようになる。</p> <p>○児童の80%が読み取ったことから、図に表し問題解決できる。</p>	
理科	<p>○実験の結果と結果から考察したことを関係付けて考える思考力が育っていない。</p>	<p>○既習事項を想起させたり、生活の中での事象も思い出させたりして、関連付けて考えることができるようにする指導が不十分である。</p>	<p>○観察や実験の際には、準備・方法・仮説(予想)・結果・考察・まとめなど、考える過程が分かるようなノート指導を継続的に行う。</p> <p>○実験の結果から得られる考察を文章化する活動を重視する。</p>	<p>○観察や実験の技能、内容の理解につまずきのある児童には個別指導を行う。</p> <p>○疑問に思ったことをもとに仮説を立て、実験方法を考え、実験結果を基に考察をする学習展開を重視する。</p> <p>○ICTを活用し、事象提示の工夫をする。</p>	<p>○児童が、自分なりの仮説に基づいて実験・観察を行い、その結果を一般化した考察として書けるようにする。</p>	
体育	<p>○めあてをもって取り組むことはできるが、技能を高め、工夫して運動しようとする姿勢が不十分である。</p>	<p>○技能を高めるためのポイントの指導が不十分である。その際、視覚的にもわかりやすいように掲示物を有効に活用することが課題である。</p>	<p>○学習カードを用い、個人やチームの課題やめあてを設定させる。</p> <p>○一人一人の実態に合わせて、適切に取り組むことのできる課題を選択させる。</p> <p>○動きのポイントに合わせた場を用意し、自己で練習の場を選択できるようにする。</p>	<p>○視聴覚資料などの学習環境を整備する。(DVD,ビデオカメラ・作戦ボード・ホワイトボード)</p>	<p>○児童が、それぞれのめあてに向かって技能を高めながら、楽しく運動できる。</p>	